

2015年7月7日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL15-30

絵画・写真コンテスト 「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」

第5回の受賞者を表彰

～ 最優秀賞は木戸 瞳さん(福岡県)と波多野 清さん(愛知県)～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表執行役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は2015年7月6日(月)、JPタワー ホール&カンファレンス(東京都)にて、第5回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」絵画・写真コンテストの授賞式を開催し、絵画部門と写真部門の2部門あわせて105件の応募の中から、5名の受賞者に賞状と副賞を贈呈しました。



【受賞者、審査員による記念撮影】

第5回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」受賞者

【最優秀賞】

絵画部門: 木戸 瞳(きど ひとみ)さん (福岡県糸島市/43歳) 『希望の雫』
写真部門: 波多野 清(はだの きよし)さん (愛知県豊川市/68歳) 『パール富士』

【優秀賞】

絵画部門: 池田 奈央(いけだ なお)さん (静岡県静岡市/22歳) 『私たちの庭』
写真部門: 荒木 信子(あらき のぶこ)さん (岐阜県各務原市/71歳) 『故郷の詩』

【一般賞】

絵画部門: 池田 奈央(いけだ なお)さん ※「優秀賞」と同時受賞
写真部門: 渡邊 浩子(わたなべ ひろこ)さん (長野県長野市/45歳) 『バトンタッチ』

審査は、絵画・写真作品ならびに制作背景を綴ったエッセイについて、作品の技術的・芸術的な評価よりも、募集テーマ「がんと生きる、わたしの物語。」を的確にとらえた作品であるかを重視し、4名の審査員により2015年4月10日に行われました。さらに今回は「一般賞」を新設し、審査員により選出された入選作品を対象にFacebookを通じて一般投票を行い、受賞者を決定しました。

日本イーライリリーの執行役員でオンコロジー事業本部 本部長のアレクサンダー・ホーンは、次のように述べています。

「がんの患者さんや支援者の方々に、芸術を通じて自己表現する場をご提供できればと考え始めたリリー・オンコロジー・オン・キャンパスはこのたび5回目を迎え、幅広い世代の方からご応募いただきました。このコンテストが、がんになっても自分らしく生きられる社会の実現の一助となり、同じ体験を持つ方々に勇気を与えてくれることを願っています。日本イーライリリーは、今後も革新的な抗がん剤の開発に取り組んでいくとともに、患者さんや支援者の皆さんの心に寄り添い、継続的なサポートを提供してまいります」

第5回の受賞作品は、過去の受賞作品と同様に、今後全国各地の医療機関や疾患啓発イベント等で展示される予定です。

<第5回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」 募集・審査について>

募集期間： 2014年10月1日～2015年1月31日

応募件数： 絵画部門 50件 写真部門 55件

募集テーマ： 「がんと生きる、わたしの物語。」

審査： 【最優秀賞、優秀賞、入選】

絵画・写真作品ならびに制作背景を綴ったエッセイについて、作品の技術的・芸術的な評価よりも募集テーマを的確にとらえた作品であるかを重視し、以下4名の審査員により2015年4月10日に行われ、最優秀賞、優秀賞、入選の計12点を決定しました。

【一般賞】

審査員により選出された作品12点を対象に、4月16日～5月28日の期間中、リリー・オンコロジー・オン・キャンパス Facebook 公式ページにて一般投票を実施し、決定しました。

審査員： 蓑 豊 (兵庫県立美術館館長)
岸本 葉子 (エッセイスト)
東儀 光則 (銅版画家)
平山 ジロウ (フォトグラファー) ※敬称略/順不同

賞： 最優秀賞(各部門1名)、優秀賞(各部門1名)、一般賞(各部門1名)、入選(若干名)

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、イーライリリー・アンド・カンパニーの子会社で、本年設立40周年を迎えます。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じて日本の医療に貢献しています。統合失調症、うつ、双極性障害、注意欠如・多動症(AD/HD)、がん(非小細胞肺癌、膵がん、胆道がん、悪性胸膜中皮腫、尿路上皮がん、乳がん、卵巣がん、悪性リンパ腫)、糖尿病、成長障害、骨粗鬆症などの治療薬を提供しています。また、アルツハイマー型認知症、関節リウマチ、乾癬、高コレステロール血症などの診断薬・治療薬の開発を行っています。詳細はホームページをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

【本件に関するお問い合わせ先】

広報代理 (株)トークス 佐野、岡田

Tel. 03-3261-7715/Fax.03-3261-7174

Email: medical@pr-tocs.co.jp

<このプレスリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、道修町記者クラブ、神戸経済記者クラブへ配付しております>

第5回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」 受賞作品

【最優秀賞】 絵画部門

木戸 瞳 (きど ひとみ) さん <福岡県糸島市>



作品タイトル 『希望の雫』

■エッセイ(抜粋)

2001年に子宮頸癌の告知を受けた瞬間は目の前が一瞬にして灰色になりました。目の前に映る色というのは気持ちでこんなに変わるのかと実感したのはそれが生まれて初めての体験でした。癌によるショックは大きかったのですが、その体験で得たものもあります。周りを見渡せば、植物、動物、昆虫、太陽の光など生命力で溢れているものに囲まれていたんだと眩しい程に感じられるようになりました。癌になって失った臓器と傷付いた心に、癌によって得たものが希望の雫となってこれからも自分らしく輝けるように信じて絵を描き続けていきたいと思います。

【最優秀賞】 写真部門

波多野 清 (はたの きよし) さん <愛知県豊川市>



作品タイトル 『パール富士』

■エッセイ(抜粋)

定年一年前に妻をがんで亡くして八年、一人暮らしもやっと慣れてきたと思っていたら、今度は自分が胃がんに。長年にわたり写真を趣味にしているが、ライフワークの一つである桜の時期の直前であり余計にショックだった。命を脅かされる病に冒されると、毎日繰り返される太陽や月の働きと共に自分も生きている証と実感する。落ち込んだ気持ちを紛らわせてくれたのも写真かもしれない。今度はあれを写そう、来月は・・・、来年は・・・。周りの人たちに支えられ、感謝の気持ちを持ち、一日でも長く生きる。それが恩返しでもある。

【優秀賞／一般賞】 絵画部門

池田 奈央 (いけだ なお) さん <静岡県静岡市>



作品タイトル 『私たちの庭』

■エッセイ(抜粋)

高三の春、母のガンが見つかりました。母はもちろん、私たち家族もガンの恐怖と闘っていました。その恐怖は糧となって、家族一人一人の心に何かが咲いたのでしょう。私の心には、真っ赤なカーネーションが綺麗に咲きました。

【優秀賞】 写真部門

荒木 信子 (あらかき のぶこ) さん <岐阜県各務原市>



作品タイトル 『故郷の詩』

■エッセイ(抜粋)

再発と転移への不安に怯えながら、でも負けたくない。もう少し生きたい。そんな私の心を支えたのは 20 年近く続けている趣味の写真でした。手術後落ち込んでいる私を見て講師から個展をやったらと声をかけて頂き「故郷の詩」をテーマに準備から開催まで指導して貰い苦しい時の人の温かさに涙が溢れました。

【一般賞】 写真部門

渡邊 浩子 (わたなべ ひろこ) さん <長野県長野市>



作品タイトル 『パトンタッチ』

■エッセイ(抜粋)

子供を授かり夫婦になって 1 年 2 カ月、息子の誕生日の 2 日前に夫は旅立ちました。この光景は夫が息子に私の事を守ってやるようにとパトンタッチしているように思えました。息子のおかげで私達は夫婦に、そして家族になれ、ガンと一緒に戦うことが出来ました。

※受賞作品の画像データもご用意しております。ご希望の際は、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。